

区議会レポート

49号

2018年9月10日発行

発行

かつしか区民連合

【区議会控室】〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137



葛飾区議会議員

かわごえ誠一

本号の内容

表面：タウンミーティング報告

裏面：区民連合会派視察報告

葛飾区議会第三回定例会開会

◆関西の台風 21 号による強風と高潮、北海道での震度 7 の地震と立て続けに大規模な災害に襲われました。被害に遭われた方に心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。葛飾区としても災害への備えを改めて点検をしていきたいと思ひます。

◆9月13日から10月15日までの33日間を会期に区議会第三回定例会が開会しました。今定例会には災害対策の二台目の水陸両用車購入の他、私立保育所施設整備費など補正予算 16 億 1642 万円が上程され審議されます。また、決算審査特別委員会が設置され、平成 29 年度の決算が審議されます。審査結果は次号でご報告します。

タウンミーティング・「依存症」学習会報告

去る 8 月 28 日 (火) にかわごえ誠一タウンミーティング・テーマ別学習会をかつしかシンフォニーヒルズで開催したところ多くの方にご参加いただき感謝申し上げます。前半は、かわごえから葛飾区の防災対策、特にブロック塀対策や水害対策について報告しました。

■学習会「依存症について知ろう！」

テーマ別学習会では (社) ギャンブル依存症問題を考える会代表の田中紀子さんから「知っていますか依存症～身近なところの病、依存症について知ろう」をテーマに講演をしていただきました。講師の田中さんはギャンブル依存症家族の中で育ち、自らのギャンブル依存症を克服した経験を元に、依存症の基本から課題、支援の取り組みまで説得力のある話がされました。

ギャンブル依存症は高校・大学の中退の要因の一つになっているとのデータから、予防教育などの整備が必要だとの指摘や、ギャンブル依存と犯罪の関連性から、再発防止プログラムの必要性も指摘されました。さらに多重債務によると見られる自殺の背景にはギャンブルも一定数存在し、その対策も急がれるとのことでした。

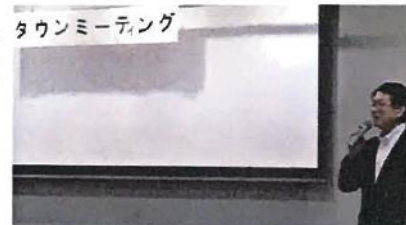
ギャンブルをはじめ依存症は脳内の神経伝達物質ドーパミ

ンが深く関与しており、本人の努力だけで回復することは難しいものです。依存症は当事者と家族やパートナーなど周囲との共依存の関係も多く、家族支援が重要です。依存症対策は医療だけでなく、自助グループなど当事者支援による社会復帰プログラムが効果的で、今後その体制整備が急がれます。現在は社会復帰支援が脆弱であるため、今後自助グループなどを支援し、育成することが大切だと話されました。

■依存症を社会の問題として考えよう

先般の国会でカジノを含む I R 法が決議されましたが、ギャンブル依存症対策については十分な議論がされているようには見えません。国として未然防止プログラムや当事者支援の方向性を明確にするべきだと考えています。しかし、法律が制定された 5 年後にはカジノができる可能性があります。それをただ待つだけでなく、今から社会で何ができるのかを考える必要があります。

まず、身近な問題として依存症を理解することから始め、自己責任と切り捨てず社会としてサポート体制を整えることが必要だと改めて感じました。葛飾区としても依存症への理解・啓発とともに相談窓口の充実、当事者・家族会の立ち上げ支援などを進めていきたいと思ひます。



タウンミーティングで報告をするかわごえ



タウンミーティングの会場風景

かつしか区民連合会派視察報告

◆去る7月にかつしか区民連合として初の会派視察を行いました。私たちは課題解決に先進的に取り組む自治体にかがいを、葛飾区政に活かすために視察を行っています。今回は札幌市と夕張市への視察の報告をいたします。

◆札幌市若者支援事業視察◆

視察の初日7月25日は札幌市若者支援総合センターYouth+にかがいを、札幌市若者支援基本構想の内容と、若者支援総合センターの事業を視察しました。

■先進的な札幌市の「若者支援」事業

札幌市は国が「子ども・若者育成支援推進法」を策定する前から若者支援の必要性を認識し、若者支援基本構想を策定して先進的な取り組みを進めてきました。

若者支援総合センターは（公財）さっぽろ青少年女性活動協会が指定管理を受け、若者の居場所・拠点としてのYouth+の運営、ひきこもりの相談、若者の団体活動支援などが行われていました。また、市内の高校へアウトリーチに取り組み、相談や窓口の紹介、ユースワークの取り組みなど若者に寄り添った活動に取り組んでいました。若者支援は過去は社会教育としての青少年活動が存在していましたが、近年困難を抱えた若者の存在が顕在化し、課題の枠組みが変わってきており、それに応じた支援が進められています。また、若者支援総合センターは札幌市子ども・若者支援地域協議会の運営も担っており、協議会参加21団体の橋渡しや研修も取り仕切っていました。これは行政だけで完結せず、民間の力との協働として注目したいと思います。

葛飾でも昨年「子ども・若者協議会」を立ち上げ、現在、計画策定へ取り組んでいますが、計画作りと共に、実行性のある協議会運営の参考にしたいと思います。



若者支援総合センターでのヒアリング



◆夕張市財政再建状況視察◆

視察2日目の7月26日は夕張市の財政再建について視察を行いました。

■自治体の財政破綻からの再出発

夕張市は炭坑最盛期のピーク時に11万人あまりあった人口が現在は約8000人に減少し、高齢化率も50%と非常に高くなっているとのこと。2006年の財政破綻以降、予算は最低限のものしか組めず、公共図書館が閉鎖されるなど住民サービスも制限されている状況でした。

その中でも現在、ローカル鉄道を戦略的に廃止し、その分の力をバス交通やタクシーやスクールバスに振り分け、地域の公共交通網再生に取り組もうとしていることや、石炭博物館をリニューアルし、産業博物館としての位置づけを地域の拠点に再構築し、夕張のまちと人の記憶をつなげていこうという取り組みは、限られた財源の中での効率的な事業のあり方と、人の心を豊かにする事業のあり方について考えさせられました。

■廃校を活用した拠点づくりから未来へ

視察最終日3日目には廃校になった旧夕張小学校の校舎の活用状況を視察しました。障害者や高齢者の就労支援のファームカフェ「らぶらす」が運営を担い、空き教室を地域活動の事務所やアーティストなどに貸出すなど、人が集う拠点となっている様子が見られました。

事業のスクラップ&ビルドは人口減少社会では必然であり、将来の日本や葛飾も目をそむけてはられないことだと感じます。その中で持続可能な社会を目指していくためには今ある地域資源の掘り起こしと、それを最大限活用するための知恵と努力が欠かせません。特に行政まかせでなく、まちの人々がつながり、自ら楽しむことが未来の希望を育てていることを強く感じました。

かわごえ誠一連絡先

〒124-0012 葛飾区立石8-4-7-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail: info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com

※日々の活動はFacebook<かわごえ誠一>

をご覧ください。

かわごえ誠一プロフィール

●昭和38年3月川崎市生まれ ●東海大学第二工学部建設工学科卒 ●立石在住30年 ●一男二女の父親 ●保育園/学童保育クラブ父母会、小中学校PTA、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワーク、三番瀬保全活動などに携わる ●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師 ●前都議会議員伊藤まさき秘書を経て平成25年区議会議員選挙で初当選・平成29年二期目当選 ●かつしか区民連合幹事 ●現在所属：議会運営委員会/総務委員会/地域活性化対策特別委員会